

## ひばり保育園 『令和6年度自己評価』

保育所保育指針では、「保育内容等の評価」として『保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない』とされています。今般、これに基づく自己評価を行いましたのでその結果を公表いたします。

対象者：全職員（園長1名、保育士8名、保育士助手4名、調理師2名、合計15名）

評価期間：令和7年2月17日～令和7年2月28日

評価シート：『全国保育士会 保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト ～「子どもを尊重する保育」のために～』

<https://z-hoikushikai.com/about/siryobox/book/checklist.pdf>

### 【チェック項目】

5項目 29問

・子どもひとりひとりの人格を尊重しないかかわり	10問
・物事を強要するようなかかわり	5問
・罰を与える乱暴なかかわり	5問
・ひとりひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	4問
・差別的なかかわり	5問

### 【集計結果】（～していない）

・子どもひとりひとりの人格を尊重しないかかわり	79%
・物事を強要するようなかかわり	69%
・罰を与える乱暴なかかわり	81%
・ひとりひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	71%
・差別的なかかわり	84%

### 【セルフチェック後の行動の振り返り】

◎子どもとかかわるときの気持ちに変化があったかの回答抜粋

- ・悪気なく言っていたこと、していたことのなかに、「良くないと考えられるかかわり」がいくつかありました。良いかかわりを意識して保育していきたいと改めて思いました。
- ・一人ひとりをより大切に保育しなければならないと思いました。
- ・子どもたちにとって、安心して過ごせる場所になれるようにしていきたいと感じました。
- ・あらためて子どもの立場になって考えるようにしなければと思いました。子どもの立場に立った保育をしていきたいです。

- ・子どもの人権やチェックリストの内容について、職員間で会話の話題になりました。自分の思いや考えを話しやすくなりました。

#### 【実施による変化】

##### ≪個人の変化≫

- ・これまでも常に人権への意識は持っていた（つもりだった）が、これまでの子どもへのかわりについて、今一度振り返る機会を持つことができました。
- ・第三者から、保育場面の一部を切り取って見られると「配慮に欠けた関り」と捉えられ兼ねない関わり方をしていました。表現方法を変えるなどより注意を払い、切り取られても問題の無いようかかわっていきたいです。

##### ≪組織としての変化≫

- ・以前はこんなことを言っていたな、昔こんなことしたことがあったな等、自身の振り返りをする会話が、さまざまな場面で聞かれました。
- ・園全体として人権への意識が高まったと感じます。

#### 【総評】

- ・セルフチェックリストを活用した自己評価を通じて、職員全体で保育のあり方を振り返る機会となりました。チェック項目を確認する中で、子どもの視点に立つことの重要性や、保育士としての目線に偏りがちであった点に気づき、日々の保育を見直す契機となりました。また、長年の経験による理解の深まりとともに、慣れから生じる過信や見落としがあることにも気づき、経験年数を問わず、技術だけでなく保育者としての基本姿勢を再確認するに至りました。

保育園は集団生活の場でもあり、集団の中での個といった見方が、当園ではまだまだ強いと感じました。個が集まってこそその集団というような保育のありについて、見直しを図り進めていきます。

子ども一人ひとりの声に耳を傾け、気持ちに寄り添うことの大切さを認識し、子どもは幼い存在であると同時に、一人の人間であることを常に意識しながら保育にあたります。